

＝ 500号特別記念号 ＝

夢ある
次の新しい岡崎を

岡崎市長

内田 康宏 氏



教育随想



平成27年1月1日
500号
特別記念号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市長 内田 康宏氏	
特集	2
高橋淳教育長に聞く	
教育の原点を発信し続けて… ～月報「岡崎の教育」 41年間のあゆみ～	4
岡崎の教育小史	4
お知らせ	6
フォト・ヒストリー … 第15回造形おかざきっ子展 (昭和53年)	8
この本を	8

平成二十七年が始まりました。岡崎市の子供たちも輝かしい新年を迎え、希望に胸を膨らませているのではないでしょうか。私も新年に臨み、新たな気概をもって、この一年を更り多い年にしたいと思えます。

このたび、月報「岡崎の教育」が発行五〇〇号を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。現在、本市の教育分野においては、市内全中学校へタブレット型情報端末の導入や東部学校給食センターの建替え、中学校の屋内運動場の改修などを重点的に進めています。これらの施策により、子供たちにより良い教育環境を提供し、岡崎の教育の三本柱である「英語教育」「環境教育」「岡崎の心の醸成」を軸にした、持続発展教育のさらなる推進に、つなげられると考えています。

御存知のとおり本市は、古より交通の要衝として栄え、徳川家康公生誕の地として数多くの貴重な歴史的文化資産を有しています。特に、本市の

シンボルである岡崎城と乙川の魅力的な水辺空間を見通す景観は、岡崎を象徴するものであり、こうした市内各地の様々な資産を活用した、「観光産業都市 岡崎」を積極的に推進し、市全体の魅力向上を図っていくことで、観光振興や地域活性化を実現していきたいと考えています。その一つとして、東公園で昨年末より、親子で楽しめる、実物大の恐竜モニュメントの設置が始まりました。三月末にはオープンングセレモニーも予定しています。ぜひ多くの皆様にお越しいただきたいと思います。

さて、今年には本市にとって「家康公四百年祭」という記念すべき年であり、家康公ゆかりの地である岡崎市、浜松市、静岡市と協力し、一年を通して様々な記念事業を展開していきます。続く翌年の岡崎市制施行一〇〇周年では、これまで先人が積み重ねてきた歴史を振り返り、次の一〇〇年を見据えて、さらなる発展への契機にしたいと考えています。

教育は国の礎であります。次世代を担う子供たちが、岡崎に生まれたことを、誇りに思える「夢ある次の新しい岡崎」に向け、教育環境の充実に努め、夢に向かって進んでいく子供たちを全力で応援してまいります。教職員の皆様におかれましても、子供たちの無限の可能性を愛情豊かに育んでいただきますように、お願いいたします。

(うちだ・やすひろ)



五〇〇号記念特集

高橋 淳 教育長に聞く

『岡崎の教育を支えてきた 教師の情熱 教師としての誇り』

高橋淳教育長を訪ねて

月報「岡崎の教育」発刊第五〇〇号を迎えるにあたり、編集委員が教育委員会を訪ね、高橋教育長にお話を伺いました。



▲ インタビューに答える 高橋教育長

月報「岡崎の教育」が昭和四十八年に創刊されて以来、五〇〇号を迎えました。感想をお聞かせください。

月報「岡崎の教育」は、今まで岡崎の教師が自分自身を省みたり、原点に立ち返ったりするための大きな拠りどころとなってきました。四十一年間の長きにわたって、創刊から五〇〇号まで継続してきたということは、大きな偉業だと思います。何よりも驚かされるのは、その内容の素晴らしさ、レベルの高さです。それは岡崎の至宝とも言えるでしょう。五〇〇号までの長い間、この月刊誌の編集に携わってきたそれぞれの時代の人たちに、「本当に御苦労様でした」という気持ちです。

今まで、さまざまな変遷を経て継続されてきた月報「岡崎の教育」に、今後望まれるのはどのようなことでしょうか。

創刊号を読ませていただきましたが、当時の

先生方の、非常に力強いエネルギーを感じました。巻頭言の『創刊にあたって』では、「わたしたちの夢は決して小さくも貧しくもないつもりである」「形ばかりの広報機関にはしたくない」「本音を本音として語りたい」と、熱く語られています。この月刊誌を实のあるものにしたたい、教育の原点に戻る場にしたたい、という強い意気込みが感じられました。

そして、五〇〇号に至るまでに、形や装丁は少しずつ変わってきました。当然、改革というのには必要だと思えます。しかし、創刊にあたられたときの先生方の根底にあった思いというものは、ぜひ、引き継いでいてもらいたいと思えます。四十一年前の先生方の思いと今のわれわれ教師の思いというのは、不変なものだと感じています。

昭和、平成の時代を振り返り、岡崎の教育を、ずっと支えてきたものは何だとお考えでしょうか。

岡崎の教育を支えてきたもの、それはやは

り「教師」です。教師の情熱、教師としての誇り、それらが、大きな支えとなってきたと思っております。これは岡崎だけに限ったことではありません。日本の小中学校、つまり、義務教育は、世界中に誇ることができると思っています。その日本の教育を支えているのは、まさに私たち教師です。

先生御自身が、教員生活を送られた中で一番大切にされていたことは、何でしょうか。

教員として大事にしてきたことは、「毎日こつこつと積み重ねていく」ということです。理想を掲げることは特になく、将来自分が、こうしようああしようということも、あまり思っていないませんでした。ただ、子供たちが五年後、十年後に社会の中で立派に通用するような人間になってほしいという願いだけをもち、教員を続けてきました。ですから、とにかくその日その日を精いっぱい過ごしていました。基本的なことの繰り返しを徹底して行う、そういう毎日でした。

私はずっと中学校で国語を教え、生活指導などにあたってきましたが、強く感じていたことは、結局、学習が一番大切だということ。正直に言うと、中学の国語というのは生徒の側からすると、あまり楽しくない教科です。数学ならば問題を解くことができたときに喜びを感じることができ、理科ならば実験をして結果が出たときに喜びを感じるこ

とができます。体育は体を動かす楽しさや、美術には作品を作っていく楽しさがあります。しかし、国語では、目に見える結果が得にくいのです。授業が始まる前からハンディキャップがあるのです。そこで、なんとか国語の授業を楽しみしてもらえようようにしたいと考え、一時間一時間の授業に全精力を傾けました。一つには、授業の中で一度は生徒たちが笑顔になる場所があるように心がけたのです。授業を終えると非常に疲れましたが、その結果、国語がとても楽しいと、言ってくれるようになりました。

体育大会の練習などで、国語の授業が変更になったときには、

「先生、国語がぶれちゃうのは嫌だな。」
と言う生徒もいました。そのときは、教師としてとてもうれしかったですね。

これからの時代の岡崎の教育に求められることは何でしょうか。

岡崎には、小中学校、高等学校を含めて、優秀な子供たちが、大勢います。学業や部活動に一所懸命取り組み、道徳心も高いのです。だから岡崎で育った子供たちには、岡崎にとどまるだけでなく、大きく羽ばたき、その能力を広い世界で発揮してほしいと願っています。

つまり、世界に通用する人物を育てること、それが私たちの使命です。そして、子供個々の能力を伸ばすだけでなく、これからは周りの人たちによい影響を与えることができるよ

うな人間を育成することが大切だと思います。今、私たちが推進している持続発展教育では、自然破壊、食糧問題や人種問題等の多岐にわたる課題を、地球規模でトータルに考えることができる子供たちを育てることを目指しています。この持続的発展教育の考え方はこれからの岡崎の教育に、強く求められていることだと考えています。

最後に、岡崎の教育の担い手である「岡崎の全教師」に向けたメッセージをお願いします。

岡崎の教師は、まさにプロフェッショナルといえる技量や意識を身に付けた人が多いと思っております。私は、岡崎の先生方に心から敬意を表し、感謝をしたいと思います。

教師は単に教えるだけではなく、人を育てることが仕事です。そのためには、育てる側に高い意識が必要で

いい教師が、
いなければ、
いい子供は、
育ちません。

私自身も、
そういう教師
であり続けた
と思っています。




▲高橋教育長にお話を伺う山田編集委員長

41年間の歩み～

「アセス」そして「ホッと」へ

「アセス」である。それが、今月号に入られるコラムとしたい。

〈六階の窓〉



▲ 第3号 (S48.8)

〈けしこむ〉



1.4)

創刊にあたって

ここに、ようやく「岡崎の教育」が創刊された。岡崎市一千の教職員の精神的交流の広場というには、あまりにもせまでであり、またみすばらしくもあらう。しかし、この「狭い広場」に托したわたしたちの夢は、けつして小さくも貧しくもないつもりである。

たとい、大気は汚染されているようにとも、ここにだけは、さわやかな新風を吹き通わせない。

たとい、自然が破壊されているようにとも、いや、破壊されているからこそ、ここでは、子供の本来の生長を考えあいたい。

たとい、「ホンネ」を「タマエ」でいいくるめるのが世の常であろうとも、せめてここだけでは、「ホンネ」を「ホンネ」としてぶちまける場でありたい。

いずれにしても、単なる広報機関にはしたくないのである。まして、形ばかりの広報機関などには、かりにもしたくないのである。

学制発足以来百年の歴史の中で、はたして、日本の教育は進歩をつづけてきたのであろうか。きらびやかな進歩のよそおいの下で、思いもかけない腐敗と墮落が進行していたのではなかつたらうか。いまこそ、わたしたちは教育の原点を見つえ、軌道の誤りを正し、日々に新しい歩みを進めるべき時であらう。

わたしたちひとりひとりが、率直に自らを省み、謙虚に他に学び、互いに交流しあい、啓発しあい、協力しあうことが要求されているのである。

この「岡崎の教育」を、そうした教職員の自己教育、相互教育の場として、育てていきたいのである。育ててほしいのである。育てあいたいのである。

▲ 創刊号 (S48.6)

この「創刊にあたって」は、毎年4月の第1回月報「岡崎の教育」編集委員会で、必ず反芻する文章である。創刊当時の編集委員の固い決意が込められている。

「いまはむかし」から「羅針盤」へ

内容を変えながら、現在は「羅針盤」として、校長と指導員が交互に執筆し、教育活動における指針を示している。

「ちょっと学校へ寄らせてもらってもいいかな」先日、私の尊敬する前田勝洋先生から突然こんな電話が入った。近くに来ていたので、私を思い出し、話をしてほしいと言われた。感激至極である。

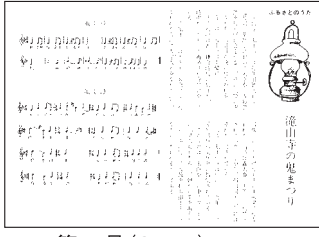
先生は、「教師と子どもが育つ教室」など数多くの著書があり、各学校の研究発表会でも講師を務められるなど多岐にわたって活躍されている。かれこれ十年ほど前、全国社会科研究大会で一緒させていただいて以来、懇意にしてください、本校にも毎年現職研修の講師として、指導を仰いでいる。その先生のお言葉に「ホッとでは」と学校づくりがある。私はこの言葉が好きで、職員にも四月初めの職員会で伝えている。



ホッとでほつとな
学校づくり
道美丘小学校長
板倉 登

「ふるさとのうた」から「この人に聞く」へ

創刊当時は、ふるさとの歌を紹介していた。現在は岡崎にゆかりのある、その道の第一人者を載せている。



岡崎の教育小史

—四〇一号からの軌跡—

- ▼平成十八年度 (401～406)
- 10 南部地域交流センター開館
- 12 教育基本法改正
- ▼平成十九年度 (407～418)
- 4 教育長に江村 力氏就任
- 4 全国学力状況調査の実施 (四十三年ぶりの実施)
- 6 岡崎市「いのちの教育」アクションプラン推進協議会開催
- 9 英語DVD全小学校へ配付
- 2 西部地域交流センター開館
- 3 岡崎げんき館開館
- ▼平成二十年度 (419～430)
- 4 小学二年生で三十五人学級開始
- 11 図書館交流プラザ「りぶら」開館
- 3 指導員会「岡崎の教師のためのHANDBOOK」作成
- ▼平成二十一年度 (431～442)
- 4 教員免許更新制度の開始
- 4 愛知県立みあい養護学校開校
- 4 中学一年生で三十五人学級開始
- 1 教育相談センター開館
- 3 環境教育推進のため「環境学習プログラム」を刊行
- 3 鳥川小・大雨河小・千万町小閉校
- ▼平成二十二年度 (443～454)
- 4 ハートピア岡崎、岡崎市教育相談センター内に移転
- 4 岡崎市による独自の教員免許状更新講習開始
- 岡崎教師塾「允文館」開講
- 「環境学習プログラム・ワークシート集」を各学校に配付

教育の原点を発信し続けて ～月報「岡崎の教育」41年間のあゆみ～

「表紙」

月報「岡崎の教育」の顔として、「表紙」も様々な変遷を遂げている。



▲ 第305号 (H10.10)



▲ 第90号 (S55.11)



▲ 第17号 (S49.10)

〈題字・紙面から(目次)・写真〉

〈題字・子供の詩・写真〉

〈題字・著名人の座右の銘・写真〉

「6階の窓」から「オアシス」

昭和52年から37年間続いた「オアシス」から「ホッと」に替わる。ホッと一息



▲ 第480号 (H25.5)

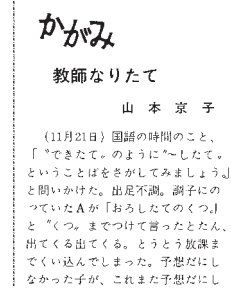


▲ 第35号 (S5)

〈オアシス〉

「かがみ」から「教育日々」そして「ふれあい」へ

子供に心を開き、葛藤しながら、教育実践を重ねる教師の営みが綴られ続けている。



▲ 第21号 (S50.2)



▲ 過去の「教育日々」の題字



創刊以来続いている。本の紹介と、校長の読書箋を載せるようになって29年目となる。

月報「岡崎の教育」の過去の号は、全てOKLINKの「発行物」のページから見ることができる。※内部公開

<http://www.oklab.ed.jp/weblog/07/index.html>

「点」から「泉」、そして「フォトヒストリー岡崎の教育」へ

写真を使ったコラムという伝統を守りつつ、各学校の活動を紹介している。



▲ 第36号 (S51.5)



▲ 第272号 (H8.1)



▲ 第340号 (H13.9)

- 11 「おかざきの心の歌ー夢 受け継いでー」作成、披露
- 3 岡崎市小学校学習指導計画を作成、市内全小学校に配布
- ▼平成二十三年度 (455～466)
- 4 小学校での新学習指導要領全面実施、小学校教科書改訂
- 4 月報「岡崎の教育」の一般回覧(年数回、地域に回覧)
- 7 「おかざきの心の歌 夢 ふくらませ」作成、披露
- 8 総合学習センター開館
- 10 「おかざきの心の歌 夢 おどる」作成、披露
- 1 岡崎市中学生英語副読本「Our City OKAZAKI」配付
- 3 岡崎市中学校学習指導計画を作成、市内全中学校に配布
- 3 「ESDへのアプローチ」持続発展可能な社会をめざす岡崎の教育に向けて」発行
- ▼平成二十四年度 (467～478)
- 4 中学校での新学習指導要領全面実施、中学校教科書改訂
- 11 教育長に高橋 淳氏就任
- ▼平成二十五年年度 (479～490)
- 4 翔南中学校開校
- 5 道徳読み物資料「夢をつむいだ人々」発行
- 5 「ESDへのアプローチ②」持続発展可能な社会の担い手を育てるために」発行
- 6 スーパーサイエンススクール推進事業、市内六校にて推進
- ▼平成二十六年度 (491～500)
- 10 タブレットPC全中学校に配備
- 1 月報「岡崎の教育」500号発行



● 教育最新情報

◆平成二十七年全国学力・学習状況調査

○調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

○調査事項

小学校は、国語・算数・理科、中学校は国語・数学・理科で、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を調査する。調査対象の児童生徒への質問紙調査、学校に対する質問紙調査も行われる。

○調査の方式

今年度引き続き、小学校六年生と中学校三年生全児童生徒を対象とする悉皆調査が行われる。

本調査を行うことにより、児童生徒の学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と

課題に関する検証改善、児童生徒に対する教育指導の改善等をきめ細かく行う。

なお、平成二十七年の調査では理科が加わる。

○調査実施日

平成27年4月21日(火)

◆平成二十七年岡崎市教員免許状更新講習

免状更新講習

平成二十七年度も、岡崎市による独自の教員免許状更新講習を行う。夏期休業中に、無料で行う。

岡崎の教育に携わる講師により、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な講習内容とする。

○受講対象者

1 岡崎市立学校・幼稚園に勤務する本務職員と常勤講師・非常勤講師・教員補助者で、次の生年月日(平成29年3月31日時点の満年齢)

に該当する者

昭和36年4月2日～

昭和37年4月1日(満55歳)

昭和46年4月2日～

昭和47年4月1日(満45歳)

昭和56年4月2日～

昭和57年4月1日(満35歳)

2 1以外で、延期申請を行い、修了確認期限が、平成28年3月31日の者

3 その他、岡崎市教育委員会が必要と認める者

各園・学校で受講対象者について確実に把握するとともに、受講対象者自らがしっかりと自覚し、確実に更新講習受講申請をしていきたい。受講申込書の提出は、四月に行う。

○受講申し込み期間

平成27年4月1日(水)～4月17日(金)

○講習期日と会場

①必修講習

平成27年 8月1日(土)・2日(日)

②選択講習

平成27年 8月5日(水)・6日(木)・7日(金)

会場は総合学習センター等

○受講対象者説明会

平成二十七年の受講対象者に対し、説明会を次のように行う。

・日時

平成27年2月27日(金)

・場所

総合学習センター

受付 午後五時半～

◆研究発表について

本年度、常磐中学校、美川中学校、豊富小学校、愛宕小学校の四校の市委嘱研究発表において、岡崎の教育に対する大きな研究成果を得ることができた。

平成二十七年研究発表校

来年度の研究発表予定校は、次の七校である。そのうち、市委嘱校が三校、自主発表校が四校である。

○市委嘱研究発表校(三校)

男川小学校

十月七日(水)

六ツ美西部小学校

十月十四日(水)

矢作中学校

十一月十一日(水)

○自主発表校(四校)

女子の部

二位 竜海中学校

七位 竜海中学校

六位 甲山中学校

一位 矢作中学校

男子の部

二位 竜海中学校

七位 竜海中学校

六位 甲山中学校

一位 矢作中学校

葵中学校(市委嘱二年次)

十月二十日(火)

本宿小学校

十月三十日(金)

竜海中学校

十一月十八日(水)

連尺小学校

二月十日(水)

○附属学校

附属岡崎小学校

六月三日(水)

秋の授業協議会

十一月十八日(水)

附属岡崎中学校

十月六日(火)

附属岡崎特別支援学校

十一月六日(金)

● 表彰

◆第22回全国中学校駅伝大会

男子の部

矢作中学校 出場

四区 二位

伊藤 太貴

◆第63回愛知県中学校駅伝大会

男子の部

一位 矢作中学校

六位 甲山中学校

七位 竜海中学校

女子の部

二位 竜海中学校

・カ
ツ
ト
下
山
小
中
島
純
一

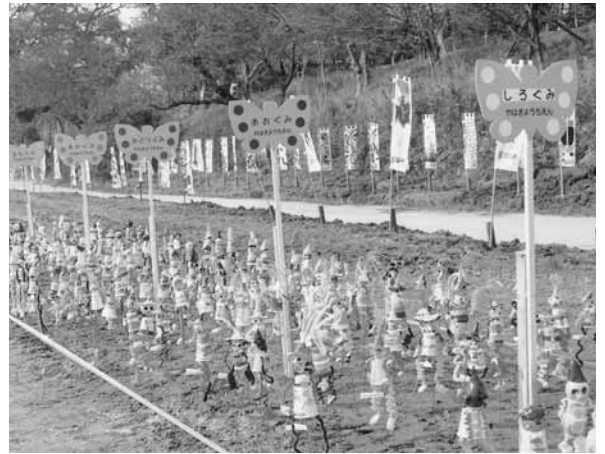
第15回 造形 おかざきっ子展 (昭和53年)

写真提供：矢作幼稚園

「第十五回 造形 おかざきっ子展」は、「ぼくらの塔に夢いっばい」をテーマにした。それまでの東公園から、岡崎城の南を流れる菅生川河川敷に会場を移設して開催された。そして、この年から市内の小中学校の児童生徒の作品だけでなく、三つの市立幼稚園の園児の作品も展示されることになった。

写真の作品は、色とりどりの素材で表現した花と、粘土と廃材を使って制作した人形である。園児が、年齢(四・五歳児)に合った、思い思いの作品を作り上げ、訪れた人の目を楽しませた。

今年度は、第五十一回目の開催となり、おかざき世界子ども美術博物館で開催されて、三十回目を迎えた。開催場所や規模は変わっても、いろいろな素材を生かして、子供たちが本来もっている豊かな創作意欲を発揮できる場であり続けている。



年の初めに、教室に差し込む清々しい光の中で、友と机を並べて書き初めをする子供たちの瞳は、穏やかでありながら真剣である。いつもとはちょっと違う、凜とした空気が教室内に張りつめ、心地よい。机の間を静かに歩きながら、今年も子供たちと共に前を向いて一歩ずつ進もうと志を新たにす。

とホ

睦月



「ホッと」に、「オアシス」だった編集後記の名称を、この五〇〇号から替える。この言葉には、「HOT (ホット)」（熱い、温かい、新しい等）、安心する「ほっと」、出発を表す「發途」の三つの意味が、込められている。

これからますます、読み応えのあるコラムにしていきたい。

ホツ

「つとめてやむな」。これは私が、卒業した小学校の校訓である。岡崎名誉市民の本多光太郎博士が残された言葉である。「教員として大事にしてきたことは、毎日こつこつと積み重ねていく、ということ」高橋教育長の言葉には、実践人としての、重みがある。

まあしく、「つとめてやむな」なのである。



*総理の夫 原田 マハ
実業之日本社 ¥1,700

心に残った一文
あなたは、唯一無二の「総理の夫」なんですかね。

インパクトのある題名だ。この小説は、ファースト・レディならぬ、ファースト・ジェントルマンとなった主人公の視点から、日本初の女性首相となった妻と自分の周りに起きたことを日記形式で展開している。フィクションではあるが、女性の活躍とそれを支える男性の姿が生き生きと描かれている。

安倍首相は成長戦略の一つに「女性が輝く社会づくり」を掲げている。この本のよう
に女性が第一線で輝く時代が望まれている。

- *ベスト・エッセイ 日本文藝家協会編 光村図書 ¥2,000
 - *その言葉だと何も言ってないのと同じです 吉岡 友治 日本実業出版社 ¥1,400
 - *メンタリストDaiGoの学級経営が5分で変わる心理学 DaiGo 文溪堂 ¥1,300
- 常磐南小 山本信幸